



# 豊玉二中だより

令和4年度 第15号  
発行日 3月23日(木)  
練馬区立豊玉第二中学校  
校長 神山 信次郎

## 卒業式 式辞

校長 神山 信次郎

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

私はただ今、86名の卒業生の皆さんに卒業証書をお渡しいたしました。皆さんには、卒業に臨んで、この卒業式の意味をしっかりと考えてほしいと思います。今、手にしている一枚の証書は、皆さんの三年間の不断の努力のたまものです。立派な三年間でした。それだけでなく、毎日の学習や部活動、生徒会活動などを通して、皆さんを教え導いた先生方の願い、そして保護者の方をはじめ地域の方々の熱い期待が込められています。私は、皆さんが多くの人々のおかげで成長し、中学校を卒業できることを忘れずに、感謝の気持ちを持ち、期待に応える誓いを、新たにしてほしいと思います。

みなさんは今日、人生で大切な節目を迎えています。中学卒業という義務教育の締めくくりです。しかし、みなさんの卒業というこの節目は、これまでの卒業生とは全く違う特別な意味をもつ節目であるのではないのでしょうか。

六十年間、豊二中と生活を共にした標準服も今日みなさんと一緒に卒業です。歴代の先輩たちの意志を引き継いできた、君たちに感謝しなければなりません。開校六十周年記念式典も立派に成し遂げてくれました。ありがとうございます。みなさんは豊二中の誇れる三年生でした。

また、みなさんの三年間はコロナなくして語ることはできません。新型コロナウイルス感染症対策のため、一斉休校になった令和二年度に入学したのが、みなさんでした。問題や課題が次々と山積する中で、学校は、臨時休校、時差登校、リモート授業、集会や行事の中止と対策をとってきました。この間にICT教育が一気に進み、これまでの学校生活から一変した三年間となりました。四苦八苦する先生たちを超えて、次々と吸収し、ICTを活用するみなさんの姿勢に新しい時代の到来を感じました。この特別な経験は、いろいろな意味でみなさんを成長させてくれたと思います。しかし、制約のあった生活も三月でひとくぎりです。学校も以前と同じ生活に戻っていきます。コロナに振り回されたみなさんの三年間も終わりです。

節目を迎え、締めくくるということは、言い換えれば、これから新しい生活が始まるということです。この三年間で学んだことを、おおいに活かしてください。新しいスタートを切る皆さんに、エールを送りたいと思います。

一つ目、どんな時にも今やるべきことを見失わず、一生懸命取り組むこと。

二つ目、相手の立場に立って行動すること。

そして、三つ目、苦しいことがあっても、耐え忍んで頑張っていく根性を持ち続けることです。

今後10年～20年程度で約47%の仕事が自動化される可能性が高いと言われています。みなさんの生きていく社会は間違いなく変化の激しい社会となるでしょう。自分の未知なる可能性のあることを信じ、それを引きだしていく努力を忘れずに、強く、たくましく、生き抜いていってください。

最後に卒業生の皆さん、私は皆さんが練馬区立豊玉第二中学校の卒業生であることを誇りとし、これからの世界を、心豊かにたくましく生き、活力のあるものにするために、全力を尽くされることを期待し、式辞いたします。

